

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立広尾高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任)＝事務局長 1名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(総務担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主任教諭(生活指導担当)、学年主任(3名) 計10名
- (4) 協議委員の構成
PTA代表、近隣中学校長、地区代表(青少年対策氷川地区委員会)、警察関係者、消防関係者、渋谷区関係者、近隣大学関係者、NPO法人理事長、塾関係者、同窓会代表 計10名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容
第1回 令和5年6月23日(金) 内部委員10名、協議委員9名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
令和4年度学校経営報告及び令和5年度学校経営計画説明
本校の現状と課題等説明
協議委員からの教育活動に対する意見
第2回 令和5年11月16日(木) 内部委員10名、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告、本校の現状と課題等
学校評価アンケートの設問確認
協議委員からの教育活動に対する意見
第3回 令和6年2月6日(火) 内部委員10名、協議委員7名
今年度の教育活動に関する報告、本校の現状と課題等
学校評価アンケート結果の分析
協議委員からの教育活動に対する意見
- (2) 評価委員会の開催日時
第1回 令和6年2月6日(火) 内部委員2名、協議委員2名

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
「学習指導」「進路指導」「生活指導」「その他」の4観点で実施。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模(生徒、保護者のアンケートはClassi利用による)

・11月	全校生徒	対象：625人	回収：269人	回収率：43.0%
・12月	保護者全員	対象：625人	回収：176人	回収率：28.2%
・12月	地域・住民	対象：19人	回収：11人	回収率：57.9%
・11月	教職員	対象：44人	回収：29人	回収率：65.9%
- (3) 主な評価項目
・学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、その他
- (4) 評価結果の概要
・令和2年度から、Classiを使用したアンケートを実施しており、4回目となる。その結果、回答の簡略化、迅速化は図られたものの、まだDX化への対応ができておらず、アンケート回答率は上がっていない。
・生徒、保護者、地域ともに、本校の取組について、昨年度に続き良好な数値結果が読み取ることができるが、読書活動に関しては半数近くの生徒が積極的に取組んでいるとはいえない。
・学習指導に関して、生徒・保護者ともに満足度は高いが、家庭学習の推進において、保護者から改善を望む声がある。
・生活指導に関する項目は、生徒、保護者ともに70～80%以上の肯定的評価を得ており、服装・頭髪など、それぞれの指導の趣旨、その徹底が理解されているものと思われる。
- (5) 評価結果の分析・考察
①学習指導

- ・授業内容については、生徒・保護者ともに80%以上の肯定的評価をしており、長期休業中や定期考査前の講習などについては、高い満足度を表している。しかしながら、家庭学習の推進については、生徒の肯定的評価が70%程度、保護者の肯定的評価が60%程度と授業満足度と比較すると低い数値となり家庭学習の指導については改善する必要がある。
- ・教員については、コロナ後を見据えた状況下、各教員が創意工夫した授業実践を行っており、授業に対する肯定的評価は90%であり、大学受験を見据えた長期休業中の講習については同じく90%の肯定的評価を示した。

②進路指導

- ・本校の進路指導の充実については、生徒が90%、保護者が80%の肯定的評価となっている。8割以上の生徒・保護者は、進路行事の充実や進路指導室でのきめ細かな進路指導に対して高い満足度を感じている。生徒の主体性を引き出し、生徒自らが高い進路に向かって、取り組ませていくことが今後も重要である。
- ・自習室の開室やコーチングスタッフによる学習支援についても、生徒・保護者ともに90%程度の満足度を示している。こうした学習環境面の支援も、進路指導満足度の高い数値につながっていると思われる。

③生活指導

- ・生活指導（服装、遅刻・挨拶指導）は、生徒で90%、保護者で85%の肯定的評価を得ている。こうした数値は、落ち着いた学校、安心安全な環境を示す指数であり、学習指導と進路指導にも相乗的な効果をもたらしている。
- ・一方で、学校での統一した服装指導ができていないとの指摘も生徒・保護者双方からある。
- ・今年度、学校行事（体育祭、文化祭、合唱祭）においては、生徒・保護者ともに90%以上の高い肯定的評価を得ることができた。部活動についても、生徒90%、保護者75%の肯定的評価があった。充実した高校生活を送っている様子がわかる。

④その他

- ・「本校には相談できる学校関係者がいる。」という項目では、生徒・保護者ともに80%となっている。教育相談（SC）の利用方法についての周知の成果が出ていると判断できる。
- ・教職員のライフワークバランスについては66%が推進を図っているとの回答であったが否定的な意見も30%以上あった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・大学入学共通テスト採点集計が、年々上昇している。「学校がよくなっている」と感じる。
- ・生徒や保護者への丁寧な情報発信やアンケート等は、引き続き確実な回収に努める必要がある。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・コロナ禍の対応からコロナ以前に戻つつある中、学校運営においても、様々な課題が発生している。また、生徒や保護者の意見・要望を聞く機会として、情報収集の工夫が求められる。多忙な状況下、生徒・保護者へのアプローチも更なる工夫が求められる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、保護者会や学校行事等、あらゆる機会を活用して、学校の教育方針、取組を説明していく。また、日常的な学校生活の様子をSNS等の利活用により、さらに幅広く理解を深めていく。保護者からは学年担任との三者面談の要望は強くある。働き方改革を踏まえつつ、長期休業中を利用した無理のない形で保護者との懇談、情報提供する機会が必要である。
- ・難関大学を含む大学進学実績の更なる向上に向けて、より工夫し組織的に取り組む必要がある。

(2) 学習指導

- ・模試の分析結果を教科会が活用し授業改善につなげていく。さらに教科間の情報共有を行うため、「1人一台端末」を活用した授業研究の機会を重ねて、継続的な授業改善に取り組む必要がある。
- ・都立高校の入試においては、男女枠の撤廃があり、都内で有数の人気校になりつつある状況に比例して、生徒・保護者の本校に対する期待度が高く、授業や講習に対する要求水準も高くなっている。これらのニーズに対して引き続き、応えていくことが必要である。
- ・生徒での家庭学習時間については、質・量ともに上げていく工夫が必要である。また、自習室スペースや図書館の利用など、さらなる高みを目指す環境づくりも必要である。

(3) 特別活動等

- ・部活動については、部活動加入率ではほぼ100%を実現しており、それぞれの部活動が高く評価されている。地域からは本校生徒への評価は高い。
- ・今後も、SNSや学校HP等を利用した情報発信の充実に努めていく。

(4) 生活指導

- ・これまでに行ってきた生活指導の取組みについては組織的に継続した取組みを行う。
- ・特に挨拶・服装・マナー等の指導を重視する指導を更に進める。また、全校統一した見解のもとに指導を進めていく必要がある。

(5) 進路指導

- ・令和5年度の卒業生は、GMARCHの合格者が前年度と比較し半減する結果となった。今後、詳細な分析が必要だが、中堅以上の大学（日東駒専+成成明國獨武）以上の合格実績を積み上げて、中堅進学校として、さらなる飛躍を目指し、生徒保護者の期待に応えていく必要がある。
- ・生徒への情報提供は満足度が高いが、保護者への情報提供については依然課題が残っている。

(6) 健康・安全

- ・生命を尊重した教育活動が求められており、スクールカウンセラーの活用を含め、生徒とのコミュニケーション、より丁寧な相談指導体制を継続して行う必要がある。

(7) その他

- ・教職員のライフワークバランスを向上するために、業務の精選やDXによる効率化を図る必要がある。

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 なし 企画調整会議 なし

7 その他

- ・アンケート項目について、質問をわかりやすくしてほしいという声があり、改善する必要がある。